



常磐会短期大学 教授 <sup>しめだ しんいちろう</sup> 卜田 真一郎 さん

豊中市人権教育推進委員協議会

副会長 <sup>うえまつ ひでこ</sup> 植松 英子 さん

事務局長 <sup>にしだ ますひさ</sup> 西田 益久 さん



人権保育専門講座では、今年度も連続講座を開催しています。第2回は、11月10日に豊中市人権教育推進委員協議会の植松さんと西田さんをゲストスピーカーにお招きし、「豊中市人権教育推進委員協議会のあゆみ」をお話しいただきました。

### 豊中市人権教育推進委員協議会 結成

1970年豊中市人権教育推進委員協議会が発足したきっかけは、豊中市民による身元調査依頼の部落差別事件です。差別意識が市民の間に、まだ根強く残っていることが浮き彫りになり、「一日も早く差別のない明るい町にしなければならぬ」と、豊中市や豊中市教育委員会の協賛を得て、市内地域団体に呼びかけ賛同する41人の市民で結成されました。身のまわりの問題を、広く社会とのかかわりから見つめたとき、すべての市民のしあわせと明るい町づくりのためには、部落問題の解決を抜きにはありえないと考え、またそのことは障がい者問題、在日外国人問題へと啓発活動を続けていきました。

41人から出発した人権協は、市内全小中学校と連携し、PTAを中心に現在約3,500人が所属する団体になりました。推進委員は講座のなかで、なぜ人権教育が必要なのか、見過ごしてきた差別の現実を見つめなおします。そして、歴史を学び、差別とは何か、人権とは何かを学習するなかで、常に自らに問いかけつつ、近隣社会へ啓発の推進活動をしています。

### 植松さんが人権教育推進委員を15年続けている理由

PTAのあて職として人権講座に参加したのがきっかけでした。当時の校長先生から、「人権講座って、面白いですよ。ぜひ、一緒に学びましょう」と声をかけられ、行ってみたらほんとに良くて、2回、3回と参加していくようになりました。「人権課題は『必要課題』であり、『生涯学習』である」という言葉通り、自分の人権意識のアップデートのためにも、推進委員を続けています。先生方からの「あんたしかおれへん」という励ましの言葉も、私の活力源になっています。

### 西田さんが語る「なぜ人権教育推進協議会ではなく、人権教育推進委員協議会なのか」

豊中市の人権協は、他の多くの団体とちがって、人権教育を推進するボランティア市民の団体です。だから名称に「委員」と入っています。この「委員」というところが大切で、差別のない明るい町にするためには、市民一人ひとりに人権教育を徹底させる必要があるという意味なんです。地域で自らが企画し、人権と差別を学び、人権教育を推進する、そんな“人権の種をまく”ことが、人権協の凄さだと思っています。

人権とは何かを学習するなかで、常に自らの差別意識に向き合い、一人称で語っていくことが、「人権確立をめざすまちづくり」につながっていきます。保育現場においても、地域の一員として、一人称で主体的に語っていくことが差別をなくすことにつながっていくのではないのでしょうか。

#### 【参加者の感想】

- 今回は人権啓発というテーマの講演で、なかなか受ける機会がないお話にとっても関心を持つことができました。住民自ら人権学習を深める話をきき、自分自身も人権保育推進保育士だから活動するのではなく、1人の人として差別を無くす活動、行動を起こさなければいけないのだと、実感しました。加差別側が人権学習し自己の差別心と向き合う事が差別を無くす根源となると確信しました。
- 豊中市人権教育推進委員協議会さんが、市民が、市民のために主体となって活動している組織であることや、また、同和問題を中心に据えているということをかかせていただき、啓発していく組織の想いが伝わりました。前回、クラス集団としてのコミュニティ作りについて考える時間をいただきましたが、コミュニティの場を地域として見た時に、やはり、お互いのことを尊重し合える価値観を作る、その輪を広げていくことが大切なのだと感じました。人権問題とどう出合っていくか、その機会をどう作っていくか、その空気作りも、私たちに必要なことだと思いました。まずは私たちの気づくことが、子どもに伝わり、そして、保護者にも伝わり、地域へと広がっていきけるようにしたいと思いました。